

# 収穫の秋を迎え、目黒区の児童が稲刈りを体験

— J A 青年部と公社が支援 —



## ウインナーづくりや 乳搾りも体験

### 乳搾りも体験

九月二十八日～三十日までの三日間、東京都目黒区の緑ヶ丘小学校（志茂暁子校長、児童二百三十六人）の五年生三十六人が「秋の農業体験学習」を行いました。

これは、総合学習の一環として今年から企画したもので、春の体験学習で田植えを行った児童が、収穫の秋を迎え、元気いっぱい稲刈りに。

再会した青年部の皆さんと田んぼに歓声を上げていました。一日目は、仙南シンケンファクトリーの工場見学やウインナーづくりを体験。二日目は、春に田植えを行った枝野地区青年部の



水田で、稲刈りを実施。カエルやイナゴに驚きながら刈り取り作業を終えました。最終日は、朝早くから渡辺博さん（藤尾）の牧場で乳しぼりを体験した後、三十六名の児童全員に公社理事長より、あぶくま農学校修了証書が手渡されました。収穫した「まなむすめ」と「もち米」は学校給食として緑ヶ丘小学校の全児童が味わうこととなります。



## 家畜糞尿の適正処理

### 講習会を開催

八月二十九日、地域循環型プロジェクトチームの活動として、畜産関係者を対象に、家畜糞尿の適正処理講習会が、角田駅オークプラザを会場に開催されました。

講習会では、宮城県大河原家畜衛生保健所の木船厚恭指導班長が、家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律の趣旨を説明。これからの畜産は環境に負荷をかけるような生産を続けられないことを学習。

また、帯広畜産大学の美濃羊輔名誉教授からは、北海道サロマ湖付近の農家が実践している、自然生態系に学んで、藻を利用し発酵とセラミックなどを駆使して尿を外部に流失させないシステムを学びました。

